

1. 評価結果概要表

評価確定日 平成20年 2月 22日

【評価実施概要】

事業所番号	2272100336
法人名	株式会社 健康倶楽部
事業所名	グループホーム あかね
所在地 (電話番号)	〒418-0022 静岡県富士宮市小泉古宮2302-7 Tel 0544-28-5300 FAX 0544-28-5302
評価機関名	セリオコーポレーション有限会社
所在地	静岡県静岡市清水区迎山町 4番1号
訪問調査日	平成19年10月29日

【情報提供票より】(平成19年 10月8日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 11 月 15 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤 15 人, 非常勤 0 人, 常勤換算	15 人

(2) 建物概要

建物形態	単 独	新 築
建物構造	鉄 骨 造 り	
	2 階建ての	1 階 ~ 2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000 円	その他の経費(月額)	36,000 円	
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		800 円	

(4) 利用者の概要(平成19年 10月 8日現在)

利用者人数	18 名	男性	2 名	女性	16 名
要介護1	5 名	要介護2	4 名		
要介護3	5 名	要介護4	2 名		
要介護5	2 名	要支援2			
年齢	平均 86 歳	最低	73 歳	最高	94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	湖山病院、小泉歯歯科、はまなか歯科、佐野医院
---------	------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

開設して4年、目前には霊峰富士山が聳えたち、同一敷地内にはデイサービス事業の建物があり、近隣には神社、公園があるなど、閑静な住宅地と相俟って大変落ち着いてゆっくりに過ごせる環境下にあるホームである。地域の中で、安心、安全な生活ができることを理念として掲げ、なじみの人間関係をつくることで「その人らしさ、」を保てるよう管理者、職員一同が日々のケアサービスに取り組んでいる。特に、一貫した職員研修と熟練度・ケアの専門性を加味した段階別達成度を職務体系の中に組み込んでおり、職員のやる気と質の向上を図っている。また、同一企業グループ内に、防災・広報・サービス向上等の委員会を設け、利用者の安全と地域との連携を深める取り組みもされている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回外部評価の課題点について、職員全員で討議しほとんどの項目は改善がみられた。ただ、栄養摂取、水分の補給において、昼食には専門にカロリー計算された食事を取り入れるなどして改善の後が伺われるものの、水分補給について、おおまかには把握しているが毎日の記録として残されていない。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	外部評価における要改善項目は全て改善されている。、自己評価においても全員で検討し、評価を活かした改善がされている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は昨年6月から2ヶ月に1度の割りで開催され、評価結果で明らかになった課題等についても会議で取り上げているが、更に継続・発展するためには、民生委員、地域住民等の参加を広く呼びかけ、初期の目的が達せられることを望みたい。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	昨年から企業グループ内に家族等からの意見・苦情等を検討し、説明するプロジェクトチームが作られ、意見等を運営に反映する仕組みができています。また、家族等の面会時においても意見を聞く機会を設け、運営に反映させている。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の行事(文化祭・運動会等)に積極的に参加し、中学生の体験学習も受け入れている。現在、福祉展に出す作品を製作中であるなど地域との交流に努め、地域密着型のホームを目指している。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスの意義を職員全員が認識し合い、住み慣れた地域で安心した暮らしの確保と事業所と地域の関係の強化を掲げた理念となっている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念の取り組み状況を目標管理シートにより把握し、毎日のミーティングや毎月1回開催のケアカンファレンスにおいて評価し、具体的なケアについて意見の統一を図っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の行事(文化祭・運動会等)に積極的に参加し、中学生の体験学習も受け入れている。現在、福祉展に出す作品を製作中であるなど地域との交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価における要改善項目は全て改善されている。、自己評価においても全員で検討し、評価を活かした改善がされている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は昨年6月から2ヶ月に1度の割りで開催され、評価結果で明らかになった課題等についても会議で取り上げている。	○	構成委員は、利用者、区長、家族代表、市職員等であるが、今後更なる発展をするために民生委員、地域住民などの参加も視野に入れられたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村担当窓口には出来るだけ出向いて情報を得ようとしているほか、市主催の研修会には出席している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月定期的に利用者の近況を、請求書や金銭管理報告を行っている。また、2ヶ月に1度「あかね新聞」を郵送している。利用者には何らかの体調の変化や問題など起きた際には、きめ細かに報告がされている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	昨年から企業グループ内に家族等からの意見・苦情等を検討し、説明するプロジェクトチームが作られ、意見等を運営に反映する仕組みができています。また、家族等の面会時においても意見を聞く機会を設けている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員は出来るだけ固定し、異動がある場合は利用者、家族によく説明し納得いただけるようにしている。新しい職員が慣れるまで1週間程度、一緒にケアを担当させるなど異動等による影響をできるだけ少なくする配慮をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月に1度は勉強会又は研修会を開催し、職員のスキルアップを図っている。職員の熟練度、ケアに対する専門性などを段階別(G1～G4)達成度を職務体系の中に組み入れ、職員の質の向上に取り組んでいる。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内同業者で作る定例会が2ヶ月に1度あるほか、他ホームを含めた利用者参加の運動会、職員の忘年会等を計画・実行して、お互いのサービス向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者、家族にホームをよく理解していただくため、ホーム内の見学と雰囲気の体験を通じ、家族、本人と相談した上、心理的不安を抱かせないように徐々に馴染めるような支援を行っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	年長者である利用者の知恵と残存能力の引き出しを行うため、利用者から教えていただいたことや残存能力を「財産ノート」に記録し、日々のケアに活用している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時の本人・家族との面談や生活歴から個々の出来ること、得意なこと、希望などを把握し、日常生活の行動や観察から利用者の希望や思いの把握を行っている。利用者はそれぞれに表現の場があることで明るく、楽しみごとのある暮らしが支援されている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族からの要望を基に、アセスメントを行い各利用者担当の職員がケアチェック表を作成し、家族を含めたケアカンファレンスにて話し合いを実施して介護計画が作成され、全職員が確認して日々のケアに活用されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	見直しは3カ月ごとに実施し、状況に応じて随時利用者担当職員がモニタリングを行い、ケアカンファレンスにて話し合い見直ししている。また、面会時に家族の意向、同意も確認している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	デイサービスが併設されている利点を生かして、利用者の交流・各種行事への相互参加・看護職員などの協力体制等が築かれている。また、病院の往受診・外泊等、本人や家族の希望に応えるよう努めている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医の他、利用前からのかかりつけ医での医療を受けられるよう、家族と協力し通院介助を行ったりして、複数の医療機関と関係を密接に結んでいる。また、事業所の協力医による毎月の訪問診療も行われている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合、本人・家族の希望や医師のアドバイスを受けた対応を話し合っているが、基本方針やマニュアル、同意書などの整備には至っていない。	○	重度化した場合や終末期のあり方について、本部を含めて基本指針の確立や対応マニュアルの整備、入居契約時から本人、家族の希望を確認し同意書をいただくなど、全職員で終末期対応を共有する仕組み作りが望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者への声かけや対応は、本人の尊厳、プライバシーを尊重し、恥をかかせない対応を最も大事なことでとらえ、友達ではない年長者、お客様としての言葉遣いを心がけて行っている。また、記録の記入は居間の片隅で行い、記録類は鍵のかかる場所に保管している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりの気持ち、ペースを尊重しその日の気分に合った対応を心がけている。家族の了解を得て月水金の晩酌を楽しむなど、本人の希望に沿った支援が行なわれている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は入居者の希望を聞きながら作られている。食事の準備や片付けは利用者と職員と一緒に、野菜を切ったり盛り付けしたり、配膳など利用者のできることを見守りながら必要に応じてさりげなくサポートしている。職員と利用者が同じテーブルを囲んで楽しく食事できるよう、雰囲気づくりも大切にしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者のその日の希望を聞き、一人ひとりの希望やタイミングに合わせた入浴支援が行われている。また、入浴チェック表にて間が開かないような配慮も行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活歴や家族の要望、日常の何気ない対話の中から、その方の得意なことや趣味を把握し、調理手伝い、配膳、食器片付け、洗濯物干しや取り込み、掃除などの役割作りや隣接のデイサービス施設を利用してカラオケ、書道、フラワーアレンジメント、折り紙、貼り絵など楽しみごとの支援を行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	一人ひとりの希望に沿って、外気浴や散歩、買い物などの他、季節の花見やピクニック・ドライブ・外食など、利用者の希望や健康状態、天候に配慮しながら、様々な工夫を凝らして外出機会を創り出している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は鍵をかけない暮らしの大切さを理解しており、入口には音のやさしい鈴を取り付け日中は鍵を掛けないで、職員の見守りの徹底を心がけている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年1回防災訓練の実施から、消防署の協力の元、隣接の施設と合同で地区防災訓練への参加など、災害時や夜間対応の地域協力が得られるよう関係する人達との輪をより大きくする取り組みを行っている。地域防災委員の携帯電話番号を管理者などの携帯に登録し非常時の連絡がすぐ取れる協力も得られている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の状況に合わせて摂取量の確保ができるよう配膳の工夫や、カロリー計算されたタイヘイメニューを取り入れたりして栄養のバランスを考えた食事が提供出来るよう心掛けています。水分補給も利用者の好みのもので一日の必要分が取れるよう工夫しているが、毎日の記録が残されていない。	○	おおまかでも、日々の水分摂取量の記録が望まれる。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は広々として落ち着いており、居間には畳の間に掘りごたつがあり利用者がゆっくりと寛げる場所となっている。また、職員と一緒に作った季節感のある貼り絵、折り紙、書、写真などや、手作りカレンダー、季節の花も飾られ、オープンキッチンでの食事の支度やにおいなども伝わり、心地良い生活感・季節感が感じられる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には本人の使い慣れた箆笥や鏡台、化粧道具や、写真、仏壇、花の置物、TVなどが持ち込まれていて、個々の利用者が安心して暮らせる環境が整えられている。		